

隔月刊アイムホーム 1・3・5・7・9・11月の各16日発売  
www.imhome-style.com

high end design  
and lifestyle

MAY 2020  
no.105

# I'm home.

海と山の週末住宅

色と素材で魅せる個性的な住まい

I'm home. 流に写真を撮る

感性を刺激する  
カフェ&ホテル

39軒

## CAFE & HOTEL STYLE

カフェ・ホテルに学ぶ、住宅インテリア

発行所 株式会社アイムホーム 編集 株式会社アイムホーム 印刷 株式会社アイムホーム 発行 株式会社アイムホーム 2020年5月16日発行 定価 550円(税別) 送料別





エンディングキッチン(CH2450mm)から北側の  
ギャラリーを見返す。床はギャラリーまでダイ  
ニングキッチンと同じタイル貼りで仕上げる  
ことにより、空間に広がりを生み出している



リビング(CH2450~2600mm)から組子の建  
具越しに主寝室を見通す。天井より410mm低  
いパーテーションを設けることで隣り合う部屋  
同士に連続性をもたせている

### 3

アートと響き合う手仕事と素材の美

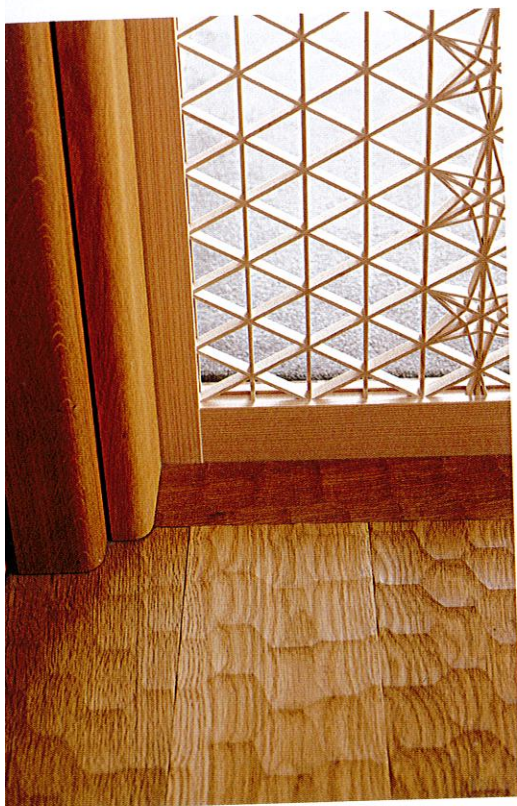
K Residence Chiba

Architecture : シオ建築設計事務所

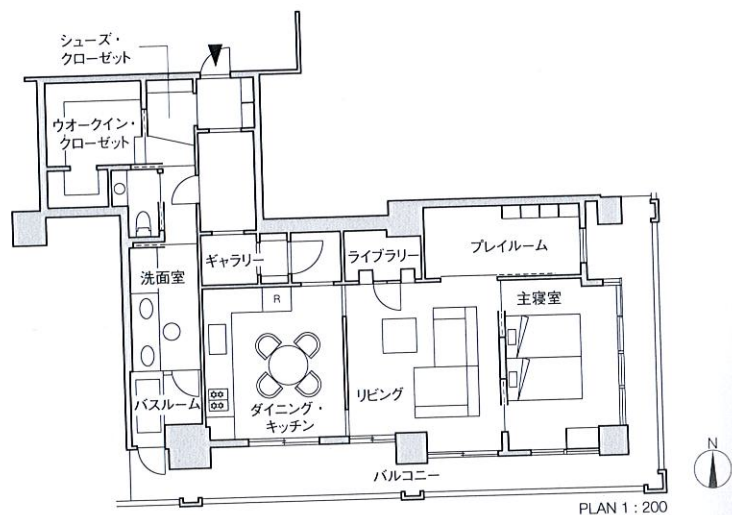
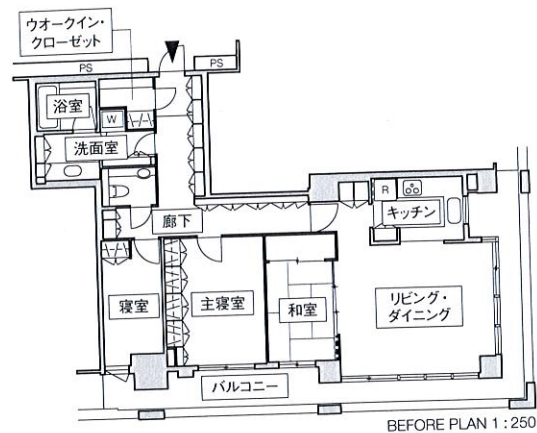
Photographs : Nacása & Partners Text : Yuka Kobayashi



たオーク材のフローリングは、足触りが良い亀甲加工で特注した。板のオーク材で、緻密な計算による面取りを施し、空間に柔らかさをテールに



室とリビングをつなぐ建具はヒノキ材で仕立て、三ツ組手亀甲と竜胆の文様を合わせたデザインに。繊細な組子は手仕事によるもので、厚みのある建具が組子の細やかな表情をよりいっそう引き立てる



となる場所に壁を設けることでシックエ  
ンスを感じる空間に。移動だけの味気な  
い空間ではなく、廊下を進むことにさま  
ざまな場面が展開する動線計画を練り上  
げた。

粋を極めた手仕事と素材を日常に  
子浦さんが設計の際、特に留意した点  
は、Kさんがアートや工芸と共に暮らし  
を生き生きと営むことができる空間とな  
ることだ。ダイニングキッチンとリビン  
グの間や、ホールのアイストップとなる  
場所に壁を設けたのも、Kさんが蒐集す  
る絵画や器を飾るため。壁にしつらえた  
アートが引き立つよう、天井と壁は白と  
グレーを基調とした配色とした。一方、  
床や、壁の小口・枠材などにはオークの  
無垢材を用いてシンプルな空間に温もり

を添えている。  
こうしたインテリアにおいて、アート  
と同じく存在感を放つのが、手仕事によ  
る建具や上質な素材の数々だ。建具に用  
いた組子は手作業でつくられたものにこ  
だわり、床に採用しているタイルは何度  
か試し焼きを行い現在の味のある色に仕  
上げている。また床や扉の木部に加え  
た亀甲加工、真鍮の引き手に施した彫刻な  
ど色調や素材、加工方法を厳選すること  
で、伝統的な素材や技法を使いながらも、  
モダンな雰囲気を漂わせる、落ち着いた  
住まいが完成した。職人の手仕事で宿る  
パーツや、選び抜かれた国産材を使用し  
た仕上げも一つのアートと考えるKさ  
ん。尊い技術や素材に息吹が吹き込まれ  
たK邸では、「本物」だけが醸し出す  
豊穡な時間が流れてゆく。



リビングに置いたソファはartifex。オットマンは  
TIME&STYLEのもの。壁のアートは、作家、井上有一の「宮  
沢賢治童話 なめとこ山の狸」、天井に設置したユニバー  
サルダウンライトによりアートを照らし出している

繊細な組子を施した建具や白漆を塗つ  
た亀甲加工の扉、オリジナルのタイルに  
真鍮の引き手など、職人技の粋を極め  
たパーツが随所に使われているK邸。従  
来とは一線を画したこのマンションリ  
ノベーションを手掛けたのは、建築家の  
子浦中さんだ。かねてより、家具や素  
材のカタログから既製品を選ぶだけの  
住まいづくりに抵抗を感じていたとい  
う子浦さん。素晴らしい技法や素材も実  
際に使われないと受け継がれずに途絶  
えてしまふ……。そのような思いと、ア  
ートの感性が結実したのがこの住まいだ。  
アートを楽しめるプランニング

以前にもKさんのセカンドハウスを  
設計した経緯があり、気心が知れせ、  
繊細な組子を施した建具や白漆を塗つ  
た亀甲加工の扉、オリジナルのタイルに  
真鍮の引き手など、職人技の粋を極め  
たパーツが随所に使われているK邸。従  
来とは一線を画したこのマンションリ  
ノベーションを手掛けたのは、建築家の  
子浦中さんだ。かねてより、家具や素  
材のカタログから既製品を選ぶだけの  
住まいづくりに抵抗を感じていたとい  
う子浦さん。素晴らしい技法や素材も実  
際に使われないと受け継がれずに途絶  
えてしまふ……。そのような思いと、ア  
ートの感性が結実したのがこの住まいだ。  
アートを楽しめるプランニング



リビングの書棚にはフローリング材やほかの造作材と同じくオーク材を使用。  
オーナーが愛するアート関係の書籍を多くディスプレイ。棚の一部は隠し扉で、  
その奥には3.2㎡のライブラリーが設けられている





からダイニングを見る。イスはハンス・J・ウェグナーがデザインした「ザ・テ  
 -ジで、ダイニングテーブルはTIME&STYLE。壁面の棚には作家、辻村史朗の  
 スプレイしている  
 ウンターは面材にオーク材のフローリングを貼り、正面の冷蔵庫を始め、レン  
 機、ゴミ箱入れなどはすべてビルトイン。天板は御影石、山西黒の本磨き  
 グキッテンの床に貼ったタイルは、岐阜の国代耐火工業所に特注したもの。一  
 5調やムラの異なる窯変タイルが、味わいある表情を生み出している  
 グキッテンへつながるホールの扉は亀甲加工を施した木材に、石川・輪島の白  
 手には真鍮を採用した





レ(CH2200mm)の御影石を用いたカウンターの上に置  
 オブジェは作家、志摩麻子の「White Wolf」。扉に使用し  
 鏡の引き手は金物師、金谷五良三郎によるもの



上/洗面室(CH2200mm)からバスルームを見る。洗  
 面器を二つ取り付けたカウンターの天板は大理石、ア  
 ジャックスの本磨き。バスルームはユニットバスを採  
 用しながら、仕上げ材にモザイクタイルや御影石を用  
 いて素材感を添えている  
 下/洗面カウンター脇の収納には洗濯機と乾燥機を  
 収め、オーク材のルーバーをあしらい空間に連続性を  
 もたせた。ゴールドで統一したフックや水栓はドイ  
 ツ・Hansgroheのもの



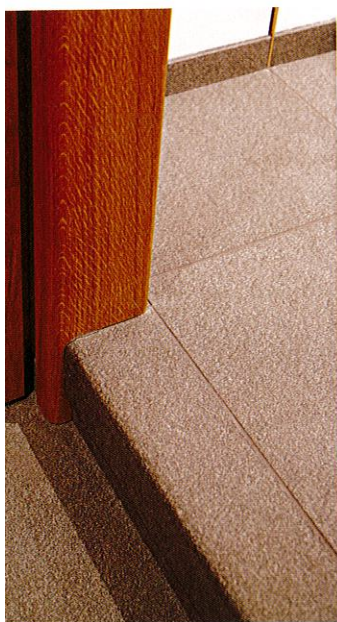
BIENCE

■ 地上32階建ての一室

■ 妻(40代) 長女(11歳)

・機器の仕様リストは233頁に掲載

右/エントランス(CH2200mm)から幅1500mmのギャラリーを見る。袖壁と額縁のような枠が突き当たりの壁を切り取り、アートを効果的に見せている。正面の壁にかけたのは辻村史朗の「抽象画」  
左上/ギャラリーの床に用いた天然石とシューズクローゼットのオーク材が接する部分も、あえて異素材を噛ませるよう仕上げています。天然石は段鼻にR加工を施し、足先が当たっても痛みを感じにくいよう配慮している  
左下/ホールの壁面は白の塗装で仕上げ、目地に用いた真鍮と美しいコントラストを描く。押し手も真鍮で、水まわりに続く隠し扉になっている



上/リビングと回遊できる主寝室(CH2450~2600mm)。壁にかけた3つのアートはフランス人アーティスト、ローレン・ユランのbas-reliefシリーズ「Untitled」  
下/ベッドはTIME&STYLEに特注。Kさんはファブリックにもこだわり、カーベットを特注し、カーテンの切り返し位置はベッドの高さに合わせてデザインした。正面の壁にかけた絵は辻村史朗の「抽象画」